

2008年3月号

# シビル メール ニュース



これまでに配信されましたシビルメールニュースは、「日本大学理工学部土木工学科」のホームページ(<http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp>)より『OB向け情報』→『シビルメールニュース』でご覧いただけます。なお、シビルメールニュースをE-mailにて配信ご希望の方または郵送を希望される方は、卒業年次・氏名・勤務先・配信メールアドレスを明記の上、[mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jp](mailto:mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jp)で申し込み下さい。

発行責任者 土木工学科教授・教室主任 岸井隆幸

## 第2回 就職相談会

平成20年2月13日(水)13時から駿河台校舎1号館にて、81社の企業の方々に参加していただき、第2回就職相談会が行われました。今回の相談会はCSTホールを使用し、2部構成で開催いたしました。1部が13時から15時(40社)、2部は16時から18時(41社)に相談会を行い、約110名(延べ)の学生が参加いたしました。参加学生は、身近に迫った就職活動の勢か、積極的に企業の方々に質問を行い、1社に1時間近くかけて相談をしている学生も見受けられました。

相談会終了後、1号館2階のカフェテリアにて土木工学科教員と参加企業の方々との懇親会を行いました。



相談会当日風景より

## 理工学部業界セミナー

2月14日(木)・15日(金)・18日(月)・19日(火)に駿河台校舎にて、18日(月)から21日(木)まで船橋校舎にて、平成20年度学部卒業及び大学院修了予定者を対象とした業界セミナーが開催されました。この業界セミナーは理工学部が主体となって開催され、参加企業は駿河台、船橋校舎を合わせて177社(内、官公庁14機関)でした。



セミナー中の教室内



1号館入口→

## 第1期奨励生に土木工学科から1名が決定

今年度から新設された日本大学公務員試験支援センター奨励金の授与式が昨年12月25日、日本大学会館で行われました。第1回奨励生に土木工学科4年布施純君(他2名)が決まり、小嶋勝衛総長・理事長から目録と証書が授与されました。布施君は国家公務員採用I種試験に合格いたしました。

(日本大学広報 第570号より抜粋)

# 平成 19 年度 学部卒業生ならびに大学院修了生の論文発表会

平成 19 年度土木工学科卒業生の卒業研究発表会が、1 月 24 日から 2 月 23 日にかけて研究室（24 研究室）ごとに駿河台校舎で行われました。また、平成 19 年度大学院土木工学専攻の博士前期課程の修士論文発表会は 2 月 25 日に駿河台校舎 142 教室で開催され、19 名の発表が行われました。なお、大学院修了予定者の発表会プログラムは、次の通りです。



修士論文発表会より

## 日本大学大学院理工学研究科土木工学専攻 平成19年度修士論文発表会プログラム

開催日：平成20年2月25日（月）  
会 場：駿河台校舎1号館4階142教室

第1セッション 9:30～11:00（90分）  
司会：安田陽一 教授 補佐：大沢昌玄 助手

学生番号	氏名	論文題名	指導教授	指導教員
M6001	明石慶太	階段状水路におけるNappe flowのエネルギー損失	大津岩夫	
M6002	大泉 伝	大都市における下水処理水再利用プロジェクト“NEWATER”の適用性に関する研究 -東京首都圏への適用-	安田陽一	山敷庸亮
M6003	大里順一	落葉広葉樹の枯葉を用いた <i>Microcystis aeruginosa</i> の増殖抑制に寄与する枯葉含有成分の特定に関する研究	松島 眸	
M6004	久保裕美	跳水内部の流速特性に対する流入射流の影響	大津岩夫	
M6005	小堀貴弘	嫌気-無酸素グラニュール法を用いた低環境負荷型栄養塩除去プロセスの開発～グラニュール化操作上の課題と処理特性～	齋藤利晃	

第2セッション 11:10～12:40（90分）  
司会：梅村靖弘 教授 補佐：下原祥平 助手

学生番号	氏名	論文題名	指導教授	指導教員
M6006	島田浩司	落葉広葉樹を用いた有毒藍藻類の増殖抑制メカニズムの検討 - 枯葉抽出液による <i>Microcystis aeruginosa</i> の光合成阻害現象 -	松島 眸	
M6007	杉原賢介	公共事業の総合評価方式における企業の入札行動決定モデル	島崎敏一	
M6008	鈴木優一	開水路流中の連結ポートに作用する抗力とポート周辺の流速特性	安田陽一	
M6009	田中秀幸	せん断帯における最大せん断ひずみベクトルの力学的意味とせん断帯モデルの検証	徳江俊秀	
M6010	千葉 祥	東京都の水需要に及ぼす貯水池の水量・水質評価手法の再検討	松島 眸	山敷庸亮

第3セッション 13:20～14:50（90分）  
司会：鈴木順一 准教授 補佐：長谷部寛 助手

学生番号	氏名	論文題名	指導教授	指導教員
M6011	中野仁嘉	業務核都市を目的地としたP&Rの実態分析	岸井隆幸	
M6012	中村敏弥	開水路急拡部を有する傾斜水路における跳水の水理特性	安田陽一	
M6013	中村祐介	傾斜分割箱一面せん断試験による豊浦砂の強度異方性	徳江俊秀	梅津喜美夫
M6014	西塚 陽	超高層建築物立地の実態と居住者の生活行動に関する調査研究 -東京23区をケーススタディとして-	岸井隆幸	
M6015	西村悠典	関東大震災における避難行動と避難場所の分析	岸井隆幸	

第4セッション 15:00～16:12（72分）  
司会：齋藤利晃 准教授 補佐：吉田征史 助手

学生番号	氏名	論文題名	指導教授	指導教員
M6016	野尻 彰	鉄道跡地の実態と再活用に関する研究	岸井隆幸	
M6017	原田慶太	多重せん断箱を用いた砂の液状化振動試験における間隙水圧の測定方法の問題点とその対策の検討	徳江俊秀	梅津喜美夫
M6018	藤瀬聡史	模型地盤における除荷による破壊伝播機構	徳江俊秀	
M6019	不破純太	破壊面形成に関するクーロン、モール・クーロン則の役割	徳江俊秀	

# 日大土木Who's who

日大土木とともに歩んだ偉人を紹介するコーナーです。今回は土木屋が人々の暮らしを支えることを信念とし、49歳の若さでこの世を去られた宮本武之輔先生です。



No. 10

氏名：宮本 武之輔（みやもと たけのすけ）

専門分野：コンクリート工学

略歴：

- 1892年（明治25年） 愛媛県温泉郡興居島村（現松山市由良町）で誕生
- 1917年（大正6年） 東京帝国大学土木工学科を卒業
- 1917年（大正6年） 内務省入省
- 1928年（昭和3年） 日本大学土木工学科にてコンクリート工学担当
- 1938年（昭和13年） 興亜院創設、技術部長（大陸経営の技術責任者）
- 1941年（昭和16年） 企画院次長（後の科学技術庁）に任命され、名実ともに最高技術行政官となる
- 1941年（昭和16年） 死去

宮本先生が行った偉業のひとつが大河津分水路補修工事です。可動堰の設計も行い、可動堰は竣工から70年経った今も稼動しています。可動堰完成後は災害査定官として全国の風水害地域を駆けめぐり、災害復旧工事関連の業務に尽力しました。

昭和5年（1930年）8月、長野県を襲った集中豪雨は、信濃川の水位を急激に上昇させ、分水路付近でも仮締切りを越えんばかりに増え続けました。

現場を預かる宮本先生は、当時完成目前だった可動堰の仮締切りを切って信濃川の濁流を日本海に導くか、下流域の市町村が洪水に見舞われるのを覚悟で仮締め切りを切らないか、ぎりぎりの決断に迫られました。宮本先生は、「土木屋としてのおれの任務は、人々の暮らしを豊かにすることなのだ。」と、工事が大きく遅れることを知りながら、仮締切りを切り、人々を洪水の危機から救いました。可動堰完成後は災害査定官として全国の風水害地域を駆けめぐり、災害復旧工事関連の業務に尽力しました。



信濃川の可動堰

一方で宮本先生は仕事の傍ら、研究を重ね、山口昇初代主任教授とともに日本大学工学部（現、理工学部）土木工学科で1928（昭和3）年から教鞭を執り、同年にコンクリートに関する研究で工学博士を与えられました。また、宮本先生は、1920（大正9）年「日本工人クラブ」を発足させるなど、技術者の地位向上のための運動を展開しました。このように、宮本先生は河川行政の進展、河川工学の発展、技術者の地位向上に偉大な功績を残し、1941（昭和16）年、49歳の若さで他界されました。

参考文献 （社）土木学会 : 「土木と200人」1984年

藤井肇男 : 「土木人物事典」（株）アテネ書房, 2004年

## 最近の教員活動状況



島崎敏一教授が2月12日（火）東京都港湾局実務研修にて「建設分野における失敗知識の活用」の題目で講演を行いました。この実務研修は東京港建設事務所大会議室にて実施され、約70名の参加者のもと14:05から16:35まで行われました。



小林義和専任講師が1月31日（木）に、タイーバンコクにあるアジア工科大学に会議の出席と論文発表のため、出張されました。会議名、発表論文のタイトルは下記の通りで、小林義和専任講師はこの会議で座長も務められました。

会議名「2nd Int'l Workshop on Numerical Simulation for Disastrous Phenomena」  
論文タイトル「Development of boundary condition of MPS and FEM for liquefaction analysis」

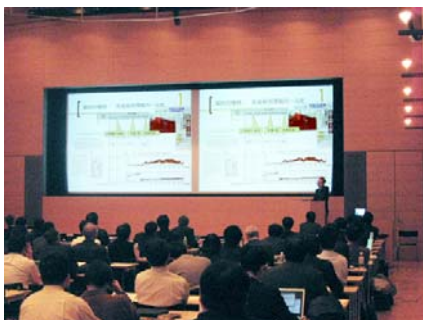
元日本大学大学院土木工学専攻、非常勤講師の池田尚治先生（横浜国立大学名誉教授）が、土木学会名誉会員に推挙され、その記念講演がCSTホールにて2月23日（土）14:30～17:00に行われました。この講演会は、池田先生が5年にわたり尽力された、日本大学社会人向け大学院授業の一環として行われ、約230名の方々が参加されました。「日本の社会と文化の発展を目指して」と題した講演会は、池田先生の基調講演と、学術識者の方々の招待講演とで構成されました。なお、この講演会の運営を本学科のコンクリート構造研究室（山崎淳教授）が担当されました。



講演会風景

## 「竜巻等による突風災害対策に関する調査研究」報告会

2月20日（水）13:00～17:30に駿河台校舎1号館CSTホールにて「竜巻等による突風災害対策に関する調査研究」報告会が開催されました。この報告会は、2006年に延岡や佐呂間で発生した竜巻被害をはじめ、近年甚大な突風災害が頻発していることを受けて、平成19年度文部科学省科学技術振興調整費の補助による研究成果を報告するものです。気象学と風工学の分野の専門家が発表を行い、報告会には約120名が出席されました。報告会の準備・運営は本学科の風工学研究室が執り行い、同研究室・野村卓史教授の研究が（「ダウンバーストなどの突風特有の非定常空気力に関する研究」）発表されました。



CSTホール内 発表風景